

1. 研究課題名：

二次的自然「里海」の短寿命生態系におけるブルーカーボン  
評価に関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

矢部 徹

(独立行政法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター)

3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

ブルーカーボンとは海洋生態系の生物活動で固定される炭素の総称で、地球全体で固定される炭素の 55%に相当する。我が国は国土当たりの海外線延長が世界 6 位であり、沿岸での炭素固定の評価は重要な課題である。

先行するサンゴ礁・マングローブ林での研究に対し、本研究では藻場・干潟といった比較的短寿命な生態系の炭素貯留機能を評価する。同時に、現在では人工干潟や造成藻場が混在する立地履歴や水産やレジャー、保護区のような管理強度の影響についても検討する。

里海における炭素貯留機能を調査することで沿岸浅海域に対する社会的・経済的価値の向上が見込まれ、生物多様性の保全や自然共生型社会の形成にも寄与すると考える。

5. 研究項目及び実施体制

本プロジェクトは、次の 4 つのサブテーマと実施体制で構成されている。

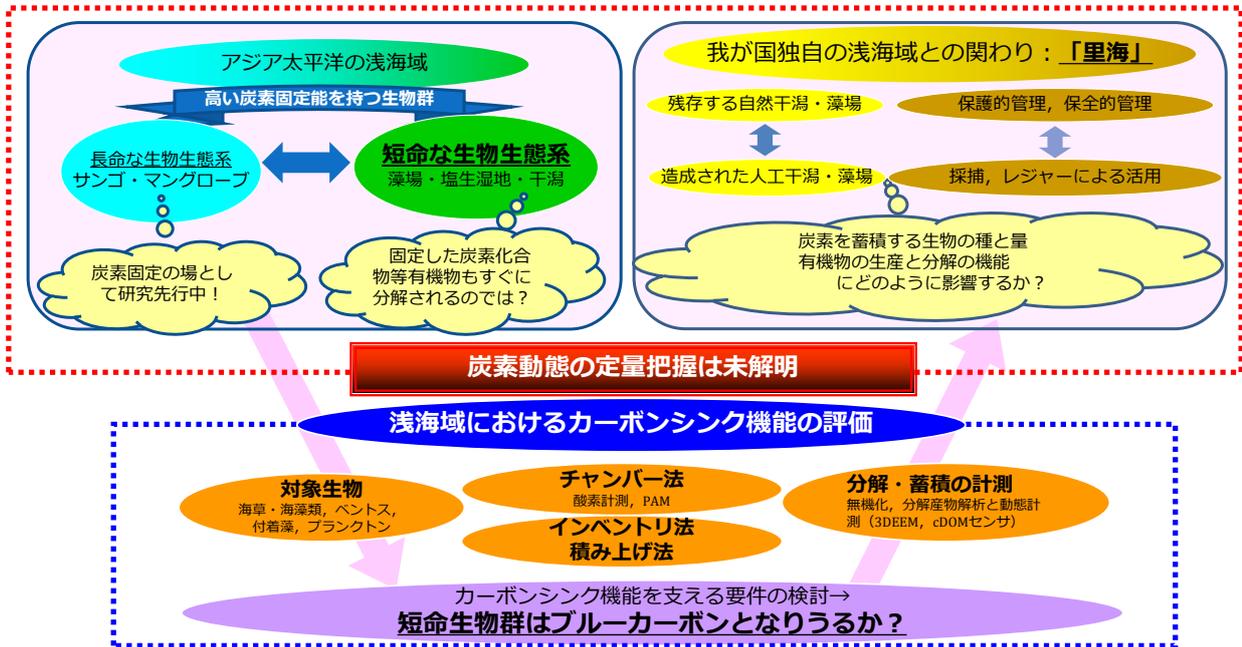
サブテーマ（1）「東京湾の藻場が有するカーボンシンク機能の評価と立地履歴、管理強度の影響解析」（(独) 国立環境研究所)

サブテーマ（2）「東京湾の干潟が有するカーボンシンク機能の評価と立地履歴、管理強度の影響解析」（(公財) 東京都環境公社東京都環境科学研究所)

サブテーマ（3）「大阪湾の干潟が有するカーボンシンク機能の評価と立地履歴、管理強度の影響解析」（(公財) ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター)

サブテーマ（4）「伊勢湾の干潟と藻場が有するカーボンシンク機能の評価と立地履歴の影響解析」（三重県水産研究所)

## 研究のポイント



## 役割分担と政策貢献

